

マイブウ・メーノス（まあーまあー）の世界 ブラジル

ブラジルを訪問する人、ブラジルに関心のある人にお勧めする！！

梅津 久 記

## 第38話ーブラジルの噂話（その2）

### 9. 犯罪率が異常に高い、それも自動小銃を使う凶悪犯

泥棒が多いので窓には柵を付ける。家の塀にも、ガラスの破片を一緒に固め、塀から侵入できないようにしている所もある。夜間で人気の無い場所の赤信号は停止しない、襲われる危険性があるから。銀行や ATM での現金の取り扱いは要注意、周りをよく見て不信そうな人がいたらパスしよう。

マナウスが中南米からの麻薬の輸送の大事なルートとなっており、ブラジル3大麻薬組織が暗躍、毎日のように報復での拳銃殺人が発生している。どんなことがあっても麻薬には手を出さないように。

### 10. ニューヨーク経由でサンパウロまで JAL 便が飛んでいる、JAL の最長路線

経営悪化での合理化のあおりを受けて 2010 年 9 月 30 日にて撤退した。2011 年 7 月現在日本からブラジルに行くには乗り継ぎ便しかない。当事はブラジルからは VARIG 航空と日本航空 JAL が相互乗り入れで飛んでいた。その VARIG も 2005 年 6 月には会社更生法の申し立てを行い倒産となり、また 32 年間就航した JAL も 2010 年 9 月で撤退となった、JAL の Roda do Vento「風のバラ」の尾翼に塗られたロゴの鶴ノマークは懐かしい。

### 11. 国旗に描かれている星空は、ブラジル共和制が樹立した日のリオデジャネイロの星空と言われている

ブラジル国旗は青、黄、緑、白の 4 色からなっており、青はブラジルの空、黄は金・鉱物資源、緑は森林、白は平和を象徴し、青の丸の中にある星はブラジル 26 州と連邦直轄区を表している。白帯(黄道)に書かれている言葉は“ORDEM E PROGRESSO(秩序と進歩)”であり、ブラジルにはまだまだ程遠い言葉である。コーポレートカラー(国を象徴する色)は緑と黄色の組み合わせであり、W 杯サッカーのユニフォームの色となっている。

## 12. 昔は、帝国だった

ポルトガル王室がナポレオンに追い出されて植民地ブラジルに亡命し、リオデジャネイロがリスボアに代わって首都となり急速に発展する。王室が帰国するとき王子（ペドロ一世）を残して行ったために、ペドロ一世は 1822 年に「ブラジル皇帝」を名乗って独立してしまった、という異色の歴史を持つ。ペドロ一世も 1831 年にペドロ二世を後継者に指名してポルトガルに退去してしまい、その後共和制への道へと進む。

## 13. サトウキビの一大生産国

ブラジルのサトウキビの生産高は世界一位で、全世界の約 40%が生産されており、砂糖として製糖されるほか、エタノールとしても精製されている。

1980 年代になるとサトウキビから精製したエタノールを車の燃料として使おうとしているブラジルに各国から注目されるようになった。1990 年代にはガソリン消費量を削減するためにアルコール車が生産されるようになる、2000 年代になるとフレックス車が生産されるようになる、2020 年代に入ると自家用車のほとんどがフレックス車に移行し、ガソリンとアルコールの国際市場の影響で振られる価格に自由に対応できるようになっていった。一方

## 14. 英雄の遺体は消防車で運ばれる

ブラジルでは英雄に言われる人の遺体は消防車に乗せられて市中を通り、国民、市民と別れを惜しむという風習がある。

私も、1994 年に業務でマナウスからサンパウロのグアルーリョスに出張した折に、早朝にホテルから会社に向かうときに、サンパウロとリオデジャネイロを結ぶ高速道路をグアルーリョス国際空港からサンパウロ市に向けて走る車列に出会った、その車列の中にアイルトン・セナの棺を載せた消防車があった、道路の両側には大勢の市民が立ち止まって手や国旗を振って別れを惜しんだり、英雄を突然失った国民の悲しさを目のあたりにした。

